



冬休みも、夏休みと同様に、クロたん（GIGA 端末）を家に持ち帰ります。個人面談や学校評価アンケート等から、家での端末活用に対する不安や疑問を頂戴しております。貴重なご意見ありがとうございます。ご納得いただけるよう努めますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

## GIGA 端末を活用した学びへの不安や疑問にお答えします

### Q：そもそも「GIGA 端末の活用」はどうして必要なの？

A： 日本では現在「令和の日本型教育学校」への転換が図られています。それに伴いアナログからデジタルへの移行が進んでおり、学校および家庭での GIGA 端末活用が不可欠です。ICT の活用は世界中で進んでおり、日本は遅れをとっているそうです。今後の日本の問題解決や経済発展には ICT の活用は必要不可欠です。そのために、ICT を使いこなせる人材を育てることが国の課題となっています。

2018 年に行われた PISA の ICT 活用調査によると、授業中のデジタル機器使用時間が OECD 加盟国の中で最下位でした。「ICT をゲームなどの『遊び』には使うが『学び』には使えない」という状況です。今や、仕事の中で PC などの情報機器を扱わないという人の方が珍しいのではないのでしょうか。一昔前までは PC を少し使うことができただけでスキルとしては十分でしたが、今の時代はそうもいきません。そのため、小学生のうちから ICT のリテラシーを身に付けることは、未来のために非常に重要なこととなってきます。将来的にもパソコンやタブレットを使いこなす力が必要となります。低学年のうちから授業で使うことによって、機器を使いこなし、ICT 機器やアプリを用いて何ができるのかを理解できます。

### Q：どうして毎日 GIGA 端末を持ち帰るの？

A： GIGA 端末を家庭へ持ち帰り、活用を進めることで、校内という場所の制限や、授業時間内という時間的な制約を超えて、子どもたちが自主的に学ぶ環境を提供することが可能となります。文房具のようにいつでも使えるという環境設定が、端末操作の技能向上に結び付きます。また、授業中と同じ活用方法を家庭でも継続して行うことで、臨時休業中の学びや、不登校傾向のある児童生徒の学びの保障へとつなげることができます。（教育委員会回答より抜粋）

### Q：子どもたちは端末を持ち帰って具体的に何をしますの？

A： 先日お配りした「クロたん通信10号」で以下のようにお知らせしています。

- 翌日の時間割や宿題、持ち物等をクラスルームのストリームで確認できます。
- 宿題をドリルパークで配信しています。※頻度や量はクラスによって異なります
- 自学自習（ドリルパーク、調べ学習、学習のまとめ、タイピング等）に役立ってます。

## Q：GIGA端末ばかりで、手書きの機会がなくなるんじゃないの？

A： そんなことはありません。もちろん、手書きから文字入力へと移った部分も多くありますが、それにより全く学校で字を書かなくなるわけではありません。漢字や計算スキル、ワークやテスト等、手書きで進めている部分はたくさんあります。書写は毛筆だけでなく硬筆の授業も変わらずにあります。また、理科、図工、体育、音楽、生活科、家庭科、外国語、総合、道徳など、五感を大切に活動、子どもたち同士の話し合いを大切に授業、情操教育等もこれまで通り行います。手紙を書いたりする活動も随所に計画されています。

先述の通り、これから先の世の中、手書きで仕事をする機会はますます減り、コンピューターを操作することの方が圧倒的に多くなることが予想されますが、アナログ対デジタルという考え方ではなく、大きく変化していくこれからの社会を生きていくために必要な力は何かを考えながら、アナログとデジタルの良さを大切にしながら、効果的に活用していくことを目指しています。

## Q：どうして宿題をドリルパークで出すの？

A： 宿題をドリルパークで出すのには以下のような理由(メリット)があります。宿題を従来のようにノートやプリントで出してほしいというご意見もあることは重々承知しております。ノートやプリントならではの良さがあることも確かな事実です。しかし、教育活動の在り方は時代とともに変化していきます。取り組みにご理解いただければ幸いです。

- プリントでは不可能だった即時自動採点により、その場での学び直しができます。
  - 学びの記録がデータとして蓄積され、個人の取組状況や習熟度を把握しやすくなります。
  - 継続的にドリルパークに触れることで、臨時休業中の課題への対応がスムーズになります。
  - プリントの削減は、資源を大切にすること(SDGs)につながります。
  - プリントのチェック時間を減らし、児童との関わりや授業準備に充てることができます。  
➡教員の働き方改革は、喫緊の課題の一つです。ドリルパークの活用は、近年の教員の多忙化問題により十分な授業準備時間が取れないという異常事態解消の一助となります。
- ※尚、宿題については有無・量・内容について、昔から賛否両論あることも併せてご理解ください。

川崎市におけるGIGAスクール構想への取り組み「かわさきGIGAスクール構想」については、川崎市教育委員会ホームページから見る事ができます。なお、以下のQRコードを読み取っていただくと、リーフレットをダウンロードできます。川崎市の学校が何を目指してどんな活動をしているのかまとめてありますので、ご参照ください。

